

ワニのガルド

ガルドは鏡の中のもう一人のわたし

3年 M・Mさん

さびしい人しか見えない、さびしいおぼけのガルド。

ひっこしたばかりで、友だちのいないヒナちゃんの前に、とつぜんあらわれた、緑色のワニ。ゆめのつづきを見ているのかと思ったら、しゃべるワニは教室にまでやってきた。「ともだちいないんだ、だからおれのことが見えるんだ。」とガルドは言った。まっと、ガルドには、さびしい心の人が分かるのだと思う。

今のわたしには、ガルドは見えない。でも、お父さんとお母さんの帰りがおそいときの、鏡にうつるわたしの、元気のないさびしい顔。

バスにのって、ピアノ教室に行くとき、バスの中には、たくさんの人がのっているけれど、わたしは一人ぼっち。まだガラスの中にいるわたしは、色がうすくて、外のけしきまでずけて見えて、とてもさびしそうに見えた。まるで、鏡の中のもう一人のわたしは、「あんた、さびしいんだ。」と言ってくるガルドのようだ。

そして、それは、どこまでも、どこまでも、わたしの後をついて来る。さびしい顔のもう一人のわたしから、にげることはできない。

「さびしくなるときある。」ってお父さんに聞いたら、「さびしいときは、心がかぜをひいているんだよ。」と教えてくれた。心にきくかぜ薬なんてないけれど、心をあたたくくしてあげることはできると思う。

注意してまわりを見てみよう。教室や校庭で、たくさんの人がいても、一人ぼっちになっている子がいたら、にっこり、笑顔で話しかけるんだ。友だちの心もあたたかくなるだろうし、わたしも、笑顔になれるから、さびしい顔のもう一人のわたしと、サヨナラできると思う。

でも、さびしい気持ちになることは、とてもいやだけれど、わたしにだけ見えていて、わたしにだけ声が聞こえる、緑色のワニのガルドとは、会って話してみたい。風のようになって、空をとんでみたい。

ガルド、かわいいコップなら、わたしだって持っているよ。だから、いつかわたしがさびしくなったら、わたしにも会いに来てね。